

## 男女関係の進展による心理的的魅力要因の変化

川 名 好 裕 (立正大学心理学部)

### The Changes of Psychological Attractions between Males and Females in Love Relationships

Yoshihiro KAWANA (*Faculty of Psychology, Rissho University*)

#### Abstract

Internet survey was conducted to study the changes of psychological attractions between men and women in love relationships. The survey participants were 968 males and 967 females with ages between 20~49, living in Japan. Samples were divided into 6 different stages of love relationships: friend, unrequited, platonic, love-sexual, affianced and married. The levels of psychological attractions; intimacy, passion, sexuality and commitment were investigated. To assess age and gender differences in these psychological attractions, I have compared between males and females in 20's, 30's and 40's.

The results revealed that male were found to be more intensive in sexuality than females in all the stages. Females were found to be more intensive in intimacy than males after mutual love relationships. Men tend to be more passionate in all stages especially after unrequited stage. Females are equally more passionate in love relationships before marriage. The study also suggested that men are more active in approaches in the early stages of love relationship whereas women are found to be more committed in the later stages of love relationships, especially after engagement. Finally, the association between interactions and psychological attractions were suggested.

**Key words** : Psychological attractions, Love relationships, Intimacy, Passion, Sexuality, Commitment

#### 問題と目的

##### 先行研究

日本における恋愛の進展段階の研究については、松井 (1993) などによってなされており、次のような「恋愛段階の5段階説」が提唱されている。

- 第1段階：友人や勉強の話をしたり、ちょっとして相談事をし、悩みを打ち明けたり、プレゼントをする。
- 第2段階：初めてのデートを経て、用もないのに電話やメールをする。
- 第3段階：キスをし、抱き合ったりするようになり、友人、に紹介する。
- 第4段階：「恋人」として友人に紹介する、
- 第5段階：結婚の話をし、性的な関係ができ、婚約をする。

しかし、時代の進展に伴い、恋愛段階も以前より、急激に前倒しになり、簡略化していることも指摘されている。(松井, 2000)

一方、Sternberg (1986) は、恋愛関係における愛情の特性を、親密性、情熱性、コミットメントとから構成されているという「愛情の三角理論」(TLS: Trian-

gular Theory of love) を提唱した。親密性とは、人と人とを親密な関係で結びつける基本的な感情要素であり、情熱性とは、異性関係独特の性的欲求と恋愛感情に基礎を置くもの、コミットメントは、責任や約束というふうな社会的拘束を伴い、関係の進展を促進し、関係の解消を阻止する力である。これらを測定する日本語版 TLS も作成されている。(金政・大坊, 2003)

これらの恋愛の進展段階に関する先行研究と男女の愛情の分類特性を参考に川名・齊藤 (2009) で「恋愛の進展段階」、および川名・齊藤 (2010) で「恋愛の進展段階 (2)」の研究を行った。川名らはこの2つの研究を通して、恋愛の進展段階について次の4段階を設定した。

- 1段階：知り合い、友人、親友などの「友達段階」
- 2段階：恋人になる以前の「片思い段階」
- 3段階：相手との身体的関係がない「精神的恋人段階」(プラトニック)
- 4段階：キスや性的関係が出来た後の「性的関係のある恋人段階」

また、男女の恋愛の進展に影響を及ぼす重要要因である言語や行動の交流内容に関しては、松井の研究を

参考に、「コミュニケーション」、「共行動」、「身体接触」、「いさかい」という交流内容の4つの側面を男女関係の交流内容として設定した。

また、男女を結びつける心理的魅力要因については、Sternberg (1986) の「愛情の三角理論」で展開された3つの因子を参考に、男女を結びつける愛情の三角理論の「親密性」、「情熱性」、「コミットメント」に加えて「性欲性」という4つの男女を結びつける心理的魅力要因を設定した。Sternberg (1986) の「愛情の三角理論」では、性欲性は情熱性に含まれるものとして扱われているが、「恋心」と「性欲」とは、違う性質を示す場面も多いので、別の概念として扱うことにした。

交流内容の4因子と男女を結びつける心理的魅力要因の4因子の合計8つの側面に関して、男女関係の進展段階を比較検討した。

しかし、これらの研究のサンプルは、20歳前後の大学生の男女という小規模サンプルで、さまざまな結論の妥当性の検証には、より年齢層が広く、かつ大サンプルも必要であろう。また、学生サンプルであると、男女関係の進展も婚約以前ということになるので、数少ない婚約関係段階のサンプル、さらに結婚後の夫婦関係のサンプルも必要で大規模調査が望まれた。

そこで川名 (2014) は、日本全国の20代～40代の男女それぞれ1000人弱の大サンプルでインターネット調査を実施した。友人、片思い、精神的恋人（プラトニック関係）、性的恋人、婚約者、配偶者という6つのすべての関係進展段階のサンプルを集めた。そこでデータ分析のうち、相互作用側面についての結果を報告した。相互作用側面とは、男女の付き合いの内容のことで、具体的に分類すると、コミュニケーション、共行動、身体接触、いさかいという側面である。これらの相互作用側面を男女比較し、また20代～40代の年代間比較を行った。分析の結果、次のような知見が得られた。男性は女性よりも進展段階の初期の段階でコミュニケーションおよび共行動において活発である一方、女性は進展段階の後半、とくに婚約段階以後において相互作用において活発であることが分かった。身体接触傾向に関しては、男性は女性よりすべての進展段階でより活発であった。世代間比較では、20代のカップルは、30代や40代のカップルより、コミュニケーション、共行動、身体接触のすべてでより活発であることが明らかにされた。他方、意見不一致などの「いさかい」は、進展段階が進むほど多くなり、夫婦関係で頂点に達することが分かった。男性の浮気傾向は、すべての進展段階で女性の浮気傾向を上回っていた。特に女性は、結婚後は急激に浮気傾向がなくなることも明らかにされた。また、男性の嫉妬傾向は女性の嫉妬傾向より高かった。男性は婚約後から夫婦関係にかけて嫉妬傾向

が特に高いことが分かった。こうした男女の相互作用形態の違いについて進化心理学的説明をした。

## 本研究の目的

本研究は、川名 (2014) と同じ、インターネット調査データを用い、男女間を結びつけている4つの心理的魅力要因（親密性、情熱性、性欲性、コミットメント）が世代比較と男女比較で関係進展によりどのように変化してゆくかを分析することを研究目的とした。

## 調査対象者

インターネット調査サンプルによる日本全国の20代～40代の男女の男性968人、女性967人。

## 方法

### 被調査者と調査時期

インターネット調査会社の登録者サンプルから、日本全国の20～49歳の男女にオンライン・アンケート調査を依頼した。対象調査実施期間は2011年7月であった。有効データ数は、合計1935人（女性967人、男性968人）で、そのデータ構成は、20代～40代（20歳～49歳）の男女を知合い・友人、片思いの相手、プラトニックな恋人、性的関係のある恋人、婚約者、配偶者（結婚相手）のそれぞれのカテゴリーに属する被調査者について、データ数を収集した。

### 調査内容

インターネット調査で使用されたアンケート項目をTable 1に示す。質問は全部で、77問で、本人の恋人など最も親しい異性を思いうかべてその相手について諸質問に回答してもらった。

質問群の構成は以下のとおりである。

- |  |           |
|--|-----------|
| ① 比較項目の質問  | (問1～問6)   |
| 相手の年齢、相手との関係、付き合い（知り合い）期間、知り合ったきっかけ、現在までに付き合い合った異性の数などである。 |           |
| ② 恋愛タイプについての質問   | (問7～問31)  |
| ③ コミュニケーションについての質問   | (問32～問36) |
| ④ 共行動についての質問   | (問37～問41) |
| ⑤ 身体接触についての質問  | (問42～問46) |
| ⑥ 情熱性についての質問   | (問47～問51) |
| ⑦ 親密性についての質問   | (問52～問56) |
| ⑧ 性欲性についての質問   | (問57～問61) |
| ⑨ コミットメントについての質問   | (問62～問66) |
| ⑩ いさかいについての質問  | (問67～問69) |
| ⑪ 嫉妬についての質問  | (問70～問73) |
| ⑫ 浮気についての質問  | (問74～問77) |

なお、問7～問77については、全く当てはまらない（1点）から非常に当てはまる（7点）のリッカート尺度である。

川名：男女関係の進展による心理的魅力要因の変化

Table 1. 本研究で用いられた調査項目

あなたの地位：学生 会社員 フリーター 無職 年齢： 歳 性別：男 女

これから、あなたの現在の恋人、もしくは、最も親しい異性（親兄弟を除く）について、うかがいます。その特定の人を心に思い描いて、以下の質問に答えて下さい。

- 問1 あなたは、1. 独身（未婚） 2. 独身（結婚歴あり） 3. 既婚 問2 その人の年齢は何歳ですか。 歳
- 問3 その人と、あなたはどのような関係ですか。最も該当するものに○をつけて下さい。  
 1. 知り合い・友人 2. 片思いの相手 3. 恋人（プラトニック（精神的）な関係）  
 4. 恋人（相手と性的関係がある） 5. 婚約者 6. 配偶者（結婚相手） 結婚年数：（ 年 ヶ月）
- 問4 その人とは何ヶ月、知り合っていますか（いましたか）？ （ ヶ月）（年は月に換算して下さい）
- 問5 その人と、どのようにして知り合いましたか。最も該当するものに○をつけて下さい。  
 1. 学校のサークル 2. 友達紹介 3. 同じ職場・バイト先 4. 幼なじみ  
 5. 友達の元彼（女） 6. 合コン 7. 同じ学校 8. その他（ ）
- 問6 あなたは今まで何人の異性と付き合ってきましたか。（約 人）

	全く当てはまらない	当てはまらない	やや当てはまらない	どちらとも言えない	やや当てはまる	当てはまる	非常に当てはまる
問7	1	2	3	4	5	6	7
問8	1	2	3	4	5	6	7
問9	1	2	3	4	5	6	7
問10	1	2	3	4	5	6	7
問11	1	2	3	4	5	6	7
問12	1	2	3	4	5	6	7
問13	1	2	3	4	5	6	7
問14	1	2	3	4	5	6	7
問15	1	2	3	4	5	6	7
問16	1	2	3	4	5	6	7
問17	1	2	3	4	5	6	7
問18	1	2	3	4	5	6	7
問19	1	2	3	4	5	6	7
問20	1	2	3	4	5	6	7
問21	1	2	3	4	5	6	7
問22	1	2	3	4	5	6	7
問23	1	2	3	4	5	6	7
問24	1	2	3	4	5	6	7
問25	1	2	3	4	5	6	7
問26	1	2	3	4	5	6	7
問27	1	2	3	4	5	6	7
問28	1	2	3	4	5	6	7
問29	1	2	3	4	5	6	7
問30	1	2	3	4	5	6	7
問31	1	2	3	4	5	6	7
問32	1	2	3	4	5	6	7
問33	1	2	3	4	5	6	7
問34	1	2	3	4	5	6	7
問35	1	2	3	4	5	6	7
問36	1	2	3	4	5	6	7
問37	1	2	3	4	5	6	7
問38	1	2	3	4	5	6	7
問39	1	2	3	4	5	6	7
問40	1	2	3	4	5	6	7
問41	1	2	3	4	5	6	7
問42	1	2	3	4	5	6	7
問43	1	2	3	4	5	6	7
問44	1	2	3	4	5	6	7
問45	1	2	3	4	5	6	7
問46	1	2	3	4	5	6	7
問47	1	2	3	4	5	6	7
問48	1	2	3	4	5	6	7
問49	1	2	3	4	5	6	7
問50	1	2	3	4	5	6	7
問51	1	2	3	4	5	6	7
問52	1	2	3	4	5	6	7
問53	1	2	3	4	5	6	7
問54	1	2	3	4	5	6	7
問55	1	2	3	4	5	6	7
問56	1	2	3	4	5	6	7
問57	1	2	3	4	5	6	7
問58	1	2	3	4	5	6	7
問59	1	2	3	4	5	6	7
問60	1	2	3	4	5	6	7
問61	1	2	3	4	5	6	7
問62	1	2	3	4	5	6	7
問63	1	2	3	4	5	6	7
問64	1	2	3	4	5	6	7
問65	1	2	3	4	5	6	7
問66	1	2	3	4	5	6	7
問67	1	2	3	4	5	6	7
問68	1	2	3	4	5	6	7
問69	1	2	3	4	5	6	7
問70	1	2	3	4	5	6	7
問71	1	2	3	4	5	6	7
問72	1	2	3	4	5	6	7
問73	1	2	3	4	5	6	7
問74	1	2	3	4	5	6	7
問75	1	2	3	4	5	6	7
問76	1	2	3	4	5	6	7
問77	1	2	3	4	5	6	7

## 結果と考察

## 心理的魅力因子の分類

男女を心理的に結び付ける心理的魅力要因に関しては、先行研究から次の4つに分類された。質問調査での問番号との対応は以下のとおりである。

- ① 親密性についての質問 (問52～問56)
- ② 情熱性についての質問 (問47～問51)
- ③ 性欲性についての質問 (問57～問61)
- ④ コミットメントについての質問 (問62～問66)

## ① 親密性の質問項目

- 問52 相手との関係は居心地の良いものである
- 問53 自分は必要な時には相手を頼ることができる
- 問54 相手とはうまくコミュニケーションがとれている
- 問55 自分と相手の関係は温かいものである
- 問56 相手は必要な時には自分を頼ってくる

## ② 情熱性についての質問項目

- 問47 相手は自分にとって非常に魅力的な人だ
- 問48 相手について空想にふけることがある
- 問49 相手を見るだけでドキドキしてしまう
- 問50 ロマンチックな映画を観たり本を読んだりするとつい相手のことを考えてしまう
- 問51 ふと気が付くと相手のことを考えていることがよくある

## ③ 性欲性についての質問項目

- 問57 相手といると性的興奮をする
- 問58 性的接触を自分から求めることがある
- 問59 相手との性的接触がよくある
- 問60 相手との性的接触をめんどろに感じる
- 問61 相手から性的接触を求められるとうんざりする

## ④ コミットメントについての質問項目

- 問62 自分にとって相手との関係よりも大切なものなど他にない
- 問63 自分と相手との関わりは揺ぎないものである
- 問64 相手なしの生活など考えられない
- 問65 相手との関わりは強いもので、何ものにも邪魔されたくない
- 問66 相手との関係を終わらせることなど自分には考えられない

これらの質問項目についてのデータに主成分分析を行い、それぞれの第一主成分を親密性因子、情熱性因子、性欲性因子、コミットメント因子とした。

## 多変量分散分析

次にこれらの親密性成分、情熱性成分、性欲性成分、コミットメント成分を4つの従属変数(目的変数)と

した。一方、三元配置の独立変数(比較変数)としては、以下のものを設定した。

- ① 年代(20代、30代、40代)
- ② 性別(男性、女性)
- ③ 関係進展段階(友人、片思い、精神的恋人、性的恋人、婚約者、配偶者)

## 心理的魅力因子の男女の進展段階による変化

以上のように、男女の関係における心理的魅力因子を以上のように、「親密性成分」、「情熱性成分」、「性欲性成分」、「コミットメント成分」に分類した。これらの男女関係の4つの心理的魅力因子の変化を性別(男女)、本人の年代(20代、30代、40代)、相手との関係進展段階6つ(友人、片思い、精神的(プラトニック)な恋人関係、性的関係のある恋人関係、婚約段階、結婚後の配偶者段階)について比較検討するのが本研究報告の目的である。

そこで、性別、年代、関係を比較変数とし、4つの心理的魅力成分を目的変数とする $2 \times 3 \times 6$ の三元配置多変量分散分析を実施した。

Table 2に多変量分散分析の分散分析表を示す。Table 3に多重比較検定の結果を示す。

Table 2. 分散分析表

\*: P&lt;0.05 \*\*: P&lt;0.01

比較変数	目的変数	Type III 平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	有意性
本人性別	コミットメント成分	23.7290	1	23.7290	8.1529	0.0043	**
	情熱性成分	26.8572	1	26.8572	8.6863	0.0032	**
	親密性成分	15.1613	1	15.1613	5.0979	0.0241	*
	性欲性	183.7600	1	183.7600	103.5038	0.0000	**
本人年代	コミットメント成分	14.2675	2	7.1338	2.4510	0.0865	傾向
	情熱性成分	47.0459	2	23.5230	7.6079	0.0005	**
	親密性成分	7.9221	2	3.9610	1.3319	0.2642	
	性欲性	33.8709	2	16.9355	9.5390	0.0001	**
関係の進展	コミットメント成分	1583.9238	5	316.7848	108.8421	0.0000	**
	情熱性成分	1097.5724	5	219.5145	70.9964	0.0000	**
	親密性成分	1381.2382	5	276.2476	92.8862	0.0000	**
	性欲性	1003.6240	5	200.7248	113.0593	0.0000	**
本人性別 * 本人年代	コミットメント成分	1.4189	2	0.7095	0.2438	0.7837	
	情熱性成分	4.1860	2	2.0930	0.6769	0.5083	
	親密性成分	0.5778	2	0.2889	0.0971	0.9074	
	性欲性	13.1756	2	6.5878	3.7106	0.0246	*
本人性別 * 関係の進展	コミットメント成分	68.6781	5	13.7356	4.7193	0.0003	**
	情熱性成分	64.3059	5	12.8612	4.1596	0.0009	**
	親密性成分	34.0648	5	6.8130	2.2908	0.0435	*
	性欲性	15.6287	5	3.1257	1.7606	0.1178	
本人年代 * 関係の進展	コミットメント成分	31.8633	10	3.1863	1.0948	0.3623	
	情熱性成分	35.7465	10	3.5746	1.1561	0.3163	
	親密性成分	38.4522	10	3.8452	1.2929	0.2286	
	性欲性	45.1114	10	4.5111	2.5409	0.0048	**
本人性別 * 本人年代 * 関係の進展	コミットメント成分	35.4940	10	3.5494	1.2195	0.2731	
	情熱性成分	25.4196	10	2.5420	0.8221	0.6073	
	親密性成分	40.2418	10	4.0242	1.3531	0.1965	
	性欲性	13.9569	10	1.3957	0.7861	0.6424	

川名：男女関係の進展による心理的魅力要因の変化

Table 3. 多重比較検定

\*\* : 1%有意 \* : 5%有意

因子	目的変数	手法	水準1	水準2	平均1	平均2	差	標準誤差	統計量	P 値			
本人性別	コミットメント成分	Scheffe	男性	女性	0.1219	-0.1226	0.2446	0.0776	9.9329	0.0016	**		
			男性	女性	0.1441	-0.1456	0.2897	0.0800	13.1183	0.0003	**		
	情熱性成分	Scheffe	男性	女性	-0.1492	0.1465	0.2957	0.0784	14.2033	0.0002	**		
			男性	女性	0.3268	-0.3285	0.6553	0.0606	116.8997	0.0000	**		
本人年代	コミットメント成分	Scheffe	20代	30代	0.4855	0.1017	0.3837	0.1159	5.4839	0.0042	**		
			20代	40代	0.4855	-0.2270	0.7125	0.1011	24.8303	0.0000	**		
			30代	40代	0.1017	-0.2270	0.3287	0.0934	6.1938	0.0021	**		
	情熱性成分	Scheffe	20代	30代	0.5464	0.0617	0.4846	0.1194	8.2325	0.0003	**		
			20代	40代	0.5464	-0.2317	0.7781	0.1042	27.8748	0.0000	**		
			30代	40代	0.0617	-0.2317	0.2934	0.0963	4.6459	0.0097	**		
	親密性成分	Scheffe	20代	30代	0.3554	0.1275	0.2278	0.1171	1.8915	0.1511	**		
			20代	40代	0.3554	-0.1929	0.5483	0.1022	14.3922	0.0000	**		
			30代	40代	0.1275	-0.1929	0.3205	0.0944	5.7617	0.0032	**		
	性欲性	Scheffe	20代	30代	0.3459	0.0722	0.2737	0.0905	4.5736	0.0104	*		
			20代	40代	0.3459	-0.1625	0.5084	0.0790	20.7272	0.0000	**		
			30代	40代	0.0722	-0.1625	0.2347	0.0729	5.1756	0.0057	**		
関係の進展	コミットメント成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-1.1650	-0.2710	0.8939	0.1301	9.4421	0.0000	**		
			A (友人)	C (プラトニック)	-1.1650	0.3175	1.4825	0.1451	20.8769	0.0000	**		
			A (友人)	D (性的恋人)	-1.1650	0.7866	1.9516	0.1016	73.8408	0.0000	**		
			A (友人)	E (婚約者)	-1.1650	1.4969	2.6618	0.1418	70.4919	0.0000	**		
			A (友人)	F (配偶者)	-1.1650	1.4734	2.6383	0.1476	63.8928	0.0000	**		
			B (片思い)	C (プラトニック)	-0.2710	0.3175	0.5885	0.1735	2.3004	0.0427	*		
			B (片思い)	D (性的恋人)	-0.2710	0.7866	1.0576	0.1392	11.5464	0.0000	**		
			B (片思い)	E (婚約者)	-0.2710	1.4969	1.7679	0.1708	21.4348	0.0000	**		
			B (片思い)	F (配偶者)	-0.2710	1.4734	1.7444	0.1756	19.7279	0.0000	**		
			C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.3175	0.7866	0.4691	0.1533	1.8727	0.0960			
			C (プラトニック)	E (婚約者)	0.3175	1.4969	1.1794	0.1825	8.3564	0.0000	**		
			C (プラトニック)	F (配偶者)	0.3175	1.4734	1.1559	0.1870	7.6397	0.0000	**		
			D (性的恋人)	E (婚約者)	0.7866	1.4969	0.7103	0.1502	4.4738	0.0005	**		
			D (性的恋人)	F (配偶者)	0.7866	1.4734	0.6868	0.1557	3.8916	0.0016	**		
			E (婚約者)	F (配偶者)	1.4969	1.4734	0.0235	0.1845	0.0032	1.0000			
			情熱性成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-1.1101	1.0635	2.1736	0.1341	52.5486	0.0000	**
					A (友人)	C (プラトニック)	-1.1101	0.6957	1.8058	0.1496	29.1589	0.0000	**
					A (友人)	D (性的恋人)	-1.1101	0.6114	1.7215	0.1047	54.0833	0.0000	**
					A (友人)	E (婚約者)	-1.1101	0.7055	1.8156	0.1461	30.8706	0.0000	**
					A (友人)	F (配偶者)	-1.1101	0.3552	1.4653	0.1521	18.5521	0.0000	**
					B (片思い)	C (プラトニック)	1.0635	0.6957	0.3678	0.1789	0.8458	0.5171	
					B (片思い)	D (性的恋人)	1.0635	0.6114	0.4521	0.1435	1.9862	0.0777	*
					B (片思い)	E (婚約者)	1.0635	0.7055	0.3580	0.1760	0.8275	0.5300	
					B (片思い)	F (配偶者)	1.0635	0.3552	0.7083	0.1810	3.0615	0.0093	**
					C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.6957	0.6114	0.0843	0.1580	0.0569	0.9979	
					C (プラトニック)	E (婚約者)	0.6957	0.7055	0.0098	0.1881	0.0005	1.0000	
					C (プラトニック)	F (配偶者)	0.6957	0.3552	0.3405	0.1928	0.6240	0.6815	
			D (性的恋人)	E (婚約者)	0.6114	0.7055	0.0941	0.1548	0.0739	0.9961			
			D (性的恋人)	F (配偶者)	0.6114	0.3552	0.2562	0.1605	0.5096	0.7692			
			E (婚約者)	F (配偶者)	0.7055	0.3552	0.3503	0.1901	0.6788	0.6395			
			親密性成分	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-0.9184	-0.9656	0.0471	0.1315	0.0257	0.9997	
					A (友人)	C (プラトニック)	-0.9184	0.3755	1.2939	0.1467	15.5638	0.0000	**
					A (友人)	D (性的恋人)	-0.9184	0.9015	1.8199	0.1027	62.8418	0.0000	**
					A (友人)	E (婚約者)	-0.9184	1.3092	2.2277	0.1433	48.3176	0.0000	**
					A (友人)	F (配偶者)	-0.9184	1.1206	2.0390	0.1492	37.3474	0.0000	**
					B (片思い)	C (プラトニック)	-0.9656	0.3755	1.3410	0.1754	11.6884	0.0000	**
					B (片思い)	D (性的恋人)	-0.9656	0.9015	1.8670	0.1407	35.2125	0.0000	**
					B (片思い)	E (婚約者)	-0.9656	1.3092	2.2748	0.1726	34.7307	0.0000	**
					B (片思い)	F (配偶者)	-0.9656	1.1206	2.0862	0.1775	27.6124	0.0000	**
					C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.3755	0.9015	0.5260	0.1550	2.3043	0.0424	*
					C (プラトニック)	E (婚約者)	0.3755	1.3092	0.9338	0.1844	5.1267	0.0001	**
					C (プラトニック)	F (配偶者)	0.3755	1.1206	0.7451	0.1891	3.1071	0.0085	**
			D (性的恋人)	E (婚約者)	0.9015	1.3092	0.4078	0.1518	1.4431	0.2057			
			D (性的恋人)	F (配偶者)	0.9015	1.1206	0.2191	0.1574	0.3877	0.8575			
			E (婚約者)	F (配偶者)	1.3092	1.1206	0.1887	0.1865	0.2047	0.9606			
			性欲性	Scheffe	A (友人)	B (片思い)	-0.9619	-0.0416	0.9204	0.1016	16.4076	0.0000	**
					A (友人)	C (プラトニック)	-0.9619	0.0128	0.9747	0.1133	14.7955	0.0000	**
					A (友人)	D (性的恋人)	-0.9619	1.0085	1.9705	0.0793	123.4050	0.0000	**
A (友人)	E (婚約者)	-0.9619			0.8734	1.8353	0.1107	54.9373	0.0000	**			
A (友人)	F (配偶者)	-0.9619			0.6173	1.5793	0.1153	37.5310	0.0000	**			
B (片思い)	C (プラトニック)	-0.0416			0.0128	0.0544	0.1355	0.0322	0.9995				
B (片思い)	D (性的恋人)	-0.0416			1.0085	1.0501	0.1087	18.6596	0.0000	**			
B (片思い)	E (婚約者)	-0.0416			0.8734	0.9150	0.1334	9.4118	0.0000	**			
B (片思い)	F (配偶者)	-0.0416			0.6173	0.6589	0.1372	4.6148	0.0003	**			
C (プラトニック)	D (性的恋人)	0.0128			1.0085	0.9957	0.1197	13.8313	0.0000	**			
C (プラトニック)	E (婚約者)	0.0128			0.8734	0.8606	0.1425	7.2942	0.0000	**			
C (プラトニック)	F (配偶者)	0.0128			0.6173	0.6046	0.1461	3.4263	0.0044	**			
D (性的恋人)	E (婚約者)	1.0085	0.8734	0.1351	0.1173	0.2655	0.9320						
D (性的恋人)	F (配偶者)	1.0085	0.6173	0.3912	0.1216	2.0697	0.0664	*					
E (婚約者)	F (配偶者)	0.8734	0.6173	0.2560	0.1441	0.6316	0.6757						

(1) 親密性の変遷

目的変数の「親密性成分」の分散分析の結果、有意差のあったものだけを示すと、以下ようになる。

分散分析表	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	有意性	
本人性別	親密性成分	15.1613	1	15.1613	5.0979	0.0241	*	単純主効果
関係の進展	親密性成分	1381.2382	5	276.2476	92.8862	0.0000	**	単純主効果
本人性別*関係の進展	親密性成分	34.0648	5	6.8130	2.2908	0.0435	*	交互作用効果

本人性別×関係の進展の交互作用効果が有意であった ( $p<.05$ )。また、本人の性別 ( $p<.05$ ) および関係の進展 ( $p<.01$ ) の単純主効果が有意であった。

Fig.1に親密性の年代比較のグラフを Fig.2親密性の男女比較のグラフを示す。

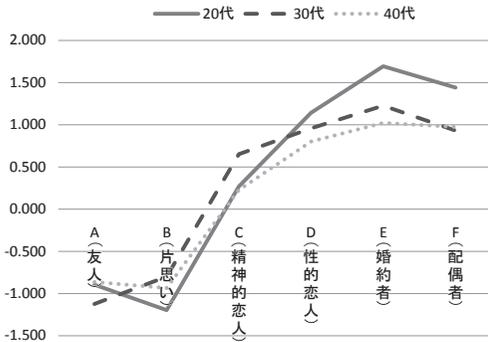


Fig.1 親密性 (年代比較)

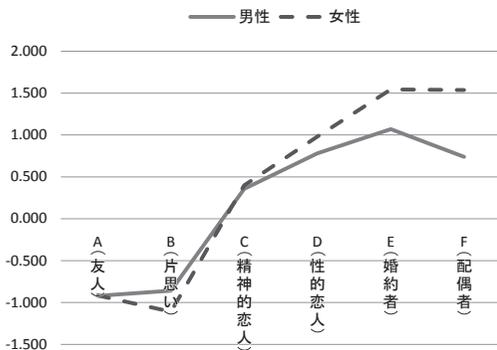


Fig.2 親密性 (男女比較)

Fig.1の年代比較では、20代~40代の年代間には有意な差がないが、関係の進展に伴って親密性が変化して

ゆくのが分かる。友人、片思い段階で低かった「親密性」が、精神的恋人段階から急激に増加し、婚約段階で頂点に達している。配偶者段階でやや下がるが親密性は維持されてゆく。

Fig.2の男女の親密性の変化の比較を示したグラフを見ると、友人から精神的恋人段階までは、男女で親密性の度合いの違いはないが、性的恋人、婚約段階、配偶者段階になると、男性より女性の方が親密性の度合いが高いことが分かる。男性では婚約段階から配偶者段階へと親密性が少し下がるが、女性では高い親密性が維持されていることが分かるであろう。

(2) 情熱性の変遷

目的変数の「情熱性成分」の分散分析の結果、有意差のあったものだけを示すと、以下ようになる。

分散分析表	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	有意性	
本人年代	情熱性成分	47.0459	2	23.5230	7.6079	0.0005	**	主効果
本人性別	情熱性成分	26.8572	1	26.8572	8.6863	0.0032	**	単純主効果
関係の進展	情熱性成分	1097.5724	5	219.5145	70.9964	0.0000	**	単純主効果
本人性別*関係の進展	情熱性成分	64.3059	5	12.8612	4.1596	0.0009	**	交互作用効果

Fig.3に情熱性の年代比較のグラフを示す。

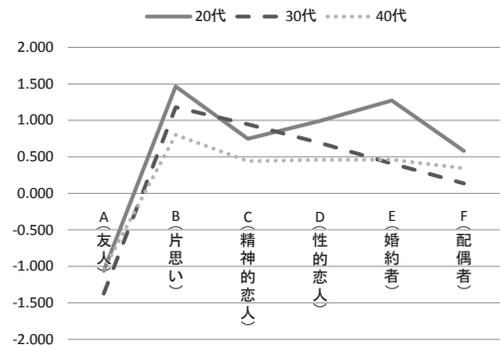


Fig.3 情熱性 (年代比較)

情熱性においては、本人年代の主効果が有意であった ( $p<.01$ )。20代が最も情熱性が高く、30代、40代と年齢が上がると、情熱性は低くなっていくという結果であった。

次に本人性別×関係の進展の交互作用効果が有意であった ( $p<.01$ )。

また、関係の進展および本人性別の単純主効果が有意であった ( $p<.01$ )。Fig.4に情熱性の男女比較のグラ

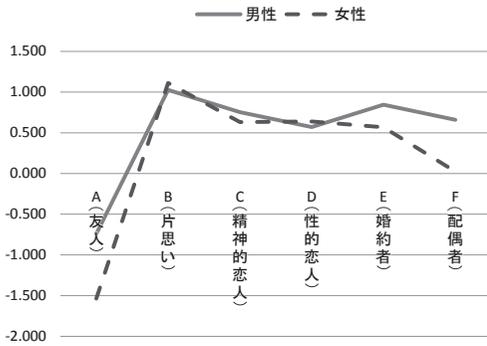


Fig. 4 情熱性 (男女比較)

フを示す。情熱性はおおよそ女性より男性の方が高く、特に友人段階、婚約者、配偶者段階では女性より男性の情熱性が高い。しかし、片思い、精神的恋人、性的恋人の段階では、男女の差は少なく、同じように情熱的であると言える。

### (3) 性欲性の変遷

目的変数の「性欲性成分」の分散分析の結果、有意差のあったものだけを示すと、以下のようになる。

分散分析表					*5%有意	**1%有意		
比較変数	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	有意性	
本人年代	性欲性	33.8709	2	16.9355	9.5390	0.0001	**	単純主効果
本人性別	性欲性	183.7600	1	183.7600	103.5038	0.0000	**	単純主効果
関係の進展	性欲性	1003.6240	5	200.7248	113.0593	0.0000	**	単純主効果
本人性別*本人年代	性欲性	13.1756	2	6.5878	3.7106	0.0246	*	交互作用効果
本人年代*関係の進展	性欲性	45.1114	10	4.5111	2.5409	0.0048	**	交互作用効果

性欲性については、本人性別×本人年代の交互作用効果が有意であった ( $p<.05$ )。また、本人性別×関係の進展の交互作用効果が有意であった ( $p<.01$ )。単純主効果については、本人年代、本人性別、関係の進展のすべてにおいて有意差があった ( $p<.01$ )。

Fig.5に性欲性の年代比較のグラフを示す。

友人、片思い、精神的恋人段階においては、30代の性欲性が高く、それに20代、40代の順になっている。しかし、性的恋人、婚約者、配偶者段階では、20代が最も高く、30代と40代はほぼ同じ程度に20代より性欲性が弱い。

Fig.6に性欲性の男女比較のグラフを示す。すべての関係段階で女性より男性の性欲性が高い。友人から片思い、精神的恋人、性的恋人と性欲性が上昇して、性

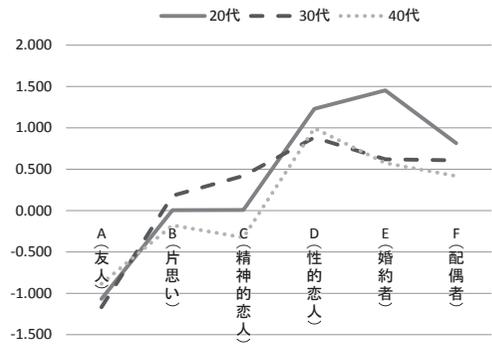


Fig. 5 性欲性 (年代比較)

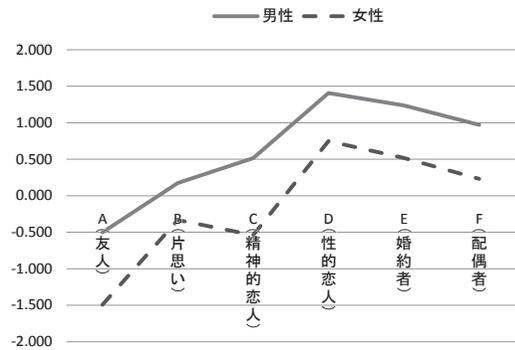


Fig. 6 性欲性 (男女比較)

的恋人段階で頂点に達したあと、婚約者、配偶者段階になると性欲性が減退してゆくようである。

### (4) コミットメントの変遷

目的変数の「コミットメント成分」に関連して有意差および傾向差のある分散分析表を示すと、以下のようになる。

分散分析表					*5%有意	**1%有意		
比較変数	目的変数	Type III平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	有意性	
本人性別	コミットメント成分	23.7290	1	23.7290	8.1529	0.0043	**	単純主効果
本人年代	コミットメント成分	14.2675	2	7.1338	2.4510	0.0865		傾向主効果
関係の進展	コミットメント成分	1583.9238	5	316.7848	108.8421	0.0000	**	単純主効果
本人性別*関係の進展	コミットメント成分	68.6781	5	13.7356	4.7193	0.0003	**	交互作用効果

本人の性別×関係の進展の交互作用効果が有意である ( $p<.01$ )。また、本人性別 ( $p<.01$ )、本人年代

( $p < .09$ )、関係の進展 ( $p < .01$ ) の単純主効果が有意である。

Fig.7に年代比較のグラフを示す。

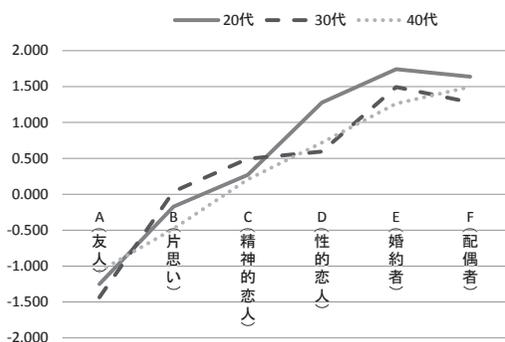


Fig.7 コミットメント (年代比較)

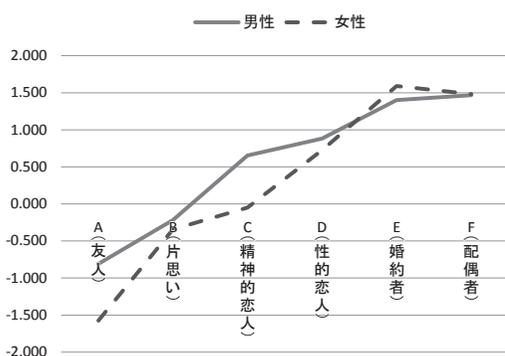


Fig.8 コミットメント (男女比較)

コミットメントは、関係の進展に伴って、次第に増加しているのが分かる。性的恋人以後の関係では、年代が若い方がコミットメントにおいて高い傾向にある。

Fig.8にコミットメントの男女比較のグラフを示す。友人から性的恋人への関係の前半段階では、女性より男性のコミットメントが高いが、婚約者、配偶者の関係の後半段階では、女性もコミットメントが高くなるようである。

### 総合的考察

本報告では、男女を結びつける心理的魅力要因を「親密性」、「情熱性」、「性欲性」および「コミットメント」に分類して、それぞれの要因を本人年代、本人性別、関係の進展段階について比較検討した。その結果、以下のような知見が確認された。

1. 親密性は、男女関係の性的恋人、婚約、配偶者段階という最終段階に向けて急激に高まる。
2. 親密性は、男女関係の進展の後半で男性より女性の方が高い。
3. 親密性は、男性では婚約段階から配偶者段階で少し下がるが、女性は維持される。
4. 情熱性は、20代世代が最も高く、年齢とともに減退する。
5. 情熱性は、女性より男性の方がやや高い傾向にある。
6. 情熱性は友人段階から片思い段階で急激に高まり維持される。
7. 情熱性は、片思いから恋人段階では、男女とも違いは少ない。
8. 情熱性が高い頂点は、男性では片思い段階と婚約段階である。
9. 情熱性が高い頂点は、女性では片思い段階である。
10. 情熱性は、婚約段階から夫婦段階で男女とも下がるが、女性の減退の方が急激である。
11. 性欲性は、20代で最も高く、30代、40代で減退する。
12. 性欲性は、すべての男女関係段階で、女性より男性の方が高い。
13. 性欲性は、性的恋人段階を目指して上昇して頂点に達し、それ以後減退してゆく。
14. コミットメントは、関係の進展に並行して上昇してゆく。
15. コミットメントは、20代では、30代～40代より、性的関係以後、急激に高まる。
16. コミットメントは、男性では性的恋人までの前半段階で女性より高く、婚約段階以後、男女同等となる。

これらの結果を総合的に考察すると、

17. 男女では、心理的魅力の様相がかなり異なる。
18. 男性は、情熱性、性欲性との関連が高い。
20. 女性は、親密性との関連が高い。
21. 男性は、関係段階の初期から相手へのアプローチが高く、女性は関係段階の後半で異性へのコミットメントが高くなる。

### 進化心理学的考察

男性の性戦略は、哺乳類の雄と同様、性的結合を目標としているかのようである。他方、女性の性戦略は、哺乳類の雌と同様、性的結合に引き続いて、妊娠、出産、養育から、さらに、長い教育期間を可能とする経済力のある父親の確保という目標としているかのようである。

このことは、男性の場合、女性に比べて性欲性が高いこと、相手の心身一体化を促す情熱性が女性に比べて、初期の友人段階および婚約、結婚段階においても高い傾向にあることから裏付けられる。男性の場合、性欲と恋心が男女関係を維持する快楽として機能していると見ることもできる。

それに対して、女性の場合は、男女関係の基本として考えられているのは、性欲性や情熱性ではなく、親密性やコミットメントであること、さらに、出産後は、夫との関係よりも自分の子供との関係に快楽や幸福を感じることが、男性とは違う特徴として指摘することができるであろう。

親密性は、男女関係だけでなく、家族、友人など比較的長期的な人間関係の維持に必要な心理的結束力であり、性欲性や情熱性の持続よりはるかに長期的な持続性を保証するものだからである。女性にとっては、性欲や恋心などの一時的で強烈な快楽よりも、長期に渡り、自分の生活や自分の子供との生活を保障する親密性やコミットメントが男女を結びつける結束力として重要視されていると考えることができる。今回の調査データの親密性の推移を示した Fig.2 などを見てもあきらかのように、女性は、パートナーとの関係が性的恋人関係といった子供の出生が可能となるような段階以後に親密性が急激に増加し、安定した結婚段階でずっと維持されているのを見ても明らかである。

コミットメントについても、その推移を示した Fig.8 を見ても女性が急激に関係の解消に歯止めをかけるコミットメントを増加させるのは、性的な関係のない精神的恋人段階では低い、性的関係ができて、かつ結婚の約束ができる婚約段階で最も高く、それが結婚後も維持されている。

以上、男女の快楽、幸福度の推移の比較をすると、男性の場合は、性的結合が関係の頂点であるのに対して、女性の場合は結婚の段階がその頂点であることが分かる。さらに男女の違いは、男性では男女関係を維持するのに大きな役割を演じているのが、性欲性と情熱性であるのに対して、女性では親密性であるという点である。

### 相互作用因子と心理的魅力因子との関係

川名(2014)では、男女関係の相互作用の因子であるコミュニケーション、共行動、身体接触などの分析をしているが、これらの相互作用の因子と、今回の分析の男女関係の心理的魅力成分である親密性、情熱性、性欲性、コミットメントとの関係は、どのようなものであろうか。

まず、親密性を支える相互作用因子は何かと考えると、第一にコミュニケーションであろう。それに加え

て、一緒に行動を共にするという共行動が親密性の発展に貢献する。男女関係の初期の展開の中で「デート」という行動では、コミュニケーションと共行動が中心の相互作用である。こうしたデートを重ねることによって親密性は増加してゆくと考えられる。

つぎに、情熱性であるが、情熱性を支える心理的刺激は、パートナーの魅力であろう。特に相手の外見的魅力である美的魅力と性的魅力は男性の情熱性を発現させ、情熱性の中核である「恋心」を生み出す。魅力の中でも外見的魅力が大きな役割を演じており、対人的魅力や社会的魅力などの、いわゆる内面的な魅力より情熱性を発現させ、育てるのに大きく影響していると言えよう。男性の場合、情熱性は友人段階ですでに、女性より高いことと、相手との交流がない片思い段階で情熱性が頂点に達していることを見ても、情熱性というものが、交流がなくても相手を見るだけで発現していることがわかる。それは、視覚的に遠くからでも確認できる相手の外見的魅力である美的魅力や性的魅力が情熱性の発現に大きな役割をもっていると言っていることができる。いわゆる「一目惚れ」というのは相手との交流が始まる前に相手に夢中になってしまうことを考えるとその発現に外見的魅力が大きな原因となっていることは明らかである。

次に、性欲性であるが、性欲性は発現させる要因は何であろうか？

性欲性と最も関連性のある相互作用要因は身体接触であろう。次に共行動も促進作用があるかもしれない。コミュニケーションは、性欲性とは関連性が低いかもしれない。

最後にコミットメントに関連すると思われる相互作用要因としては、それぞれが総合的に影響を与えていると思うが、特に性欲性の展開との関連が高いかもしれない。

以上、相互作用要因と心理的魅力因子との関係を推定してみたが、今後の分析では、それらの間の関連性の推定や仮説を検証するために重回帰分析や共分散構造分析を用いて検討する必要があると思われる。

### 引用文献

- 金政祐司・大坊郁夫 2003 愛情の三角理論における3つの要素と親密な異性関係 感情心理学研究, 10, 11-24
- 川名好裕・齊藤勇 2009 恋愛の進展段階 日本社会心理学会 第50回大会発表論文集, 112-113
- 川名好裕・齊藤勇 2010 恋愛の進展段階(2) 日本社会心理学会 第51回大会発表論文集, 74-75
- 川名好裕 2014 男女関係の進展による交流内容の変化 立正大学心理学研究年報 第5号, 11-25

松井豊 1993 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究、  
64(5), 335-342

松井豊 2000 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会 第  
41回大会発表論文集, 92-93

Sternberg, R. J. 1986 "A triangular theory of love,"  
*Psychological Review*, Vol. 93, No.2. 119-135

#### 付 記

この研究は、2011年～2013年度立正大学心理学研究  
所の共同研究助成のもとで企画されたものの一部であ  
る。立正大学心理学研究所の助成に感謝の意を表した  
い。

#### 要 約

愛情関係にある男女における心理的魅力の変化を分析研究するためにインターネット調査を行った。調査参加者は、日本全国からのサンプルで968名の男性と967名の女性であった。年齢は、20歳～49歳であった。調査サンプルは、異性の相手が友人、片思い、精神的恋人、性的恋人、婚約者、配偶者の6つの交際進展段階に分類された。親密性、情熱性、性欲性、コミットメントという4つの男女を結び付ける心理的魅力について分析がなされた。これらの心理的魅力因子が性別、関係進展段階、本人の年代について比較研究がなされた。

分析の結果、以下のような知見が得られた。男性は女性より、性欲性がすべての関係段階で上回っていた。女性は、相互の愛情的関係が形成された後では、男性以上に親密性が高いことが分かった。男性は片思い段階以後のすべての段階で女性より情熱性が高いことが分かった。女性は、片思い以後、結婚以前まで情熱性は男性と同じ程度に高かった。男性は男女の関係段階の初期から性的恋人になるまで、積極的に相手の女性にアプローチすることが分かった。女性は、男女の関係段階の最後の段階の婚約、結婚段階で相手へのコミットメントが大きくなることが分かった。最後に、相互作用的要因と心理的魅力要因との関連性について今後の分析が示唆された。

キーワード：心理的魅力、愛情関係、親密性、情熱性、性欲性、コミットメント